

令和4年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度4月に、6年生を対象として「令和4年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語と算数、理科に限られ、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことをまず踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった6年生には、よりきめ細やかな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

1. 調査内容

- ◆教科に関する調査 国語・算数・理科に関する調査
- ◆児童質問紙調査 生活習慣や学習環境・学習方法等に関する調査

2. 調査結果の概要と課題

◆調査結果の概要

- 国語 全国値を上回っている
- 算数 全国値を上回っている
- 理科 全国値を上回っている

◆正答率の低い問題から見える課題について

誤答から、課題を明らかにするために、正答率から課題等について取り上げました。

教科	領域	正答率から見える課題等
国語	知識及び技能	○話し言葉と書き言葉との違いを理解することができる。 ○話の中心を捉えることができる。
	思考力、判断力、表現力等	○登場人物の相互関係や人物像、物語の全体像について、描写を基に捉えることができる。 ●話し合いの目的を意識しながら、問題点をふまえた自分の考えを求めることに課題が見られる。 ●互いの書いた文章を読み合い、具体的に感想や意見を伝え合うことを通して、よさを見付けたり、よさを言葉に表したりすることに課題が見られる。

教科	領域	正答率から見える課題等
算数	数と計算	○示された問題から計算をし、答えを求めることができる。 ●示された場面において、目的に合った概数にして計算する方法を選ぶことに課題が見られる。
	図形	○図形を構成する要素に着目し、図形の意味や性質、構成の仕方について理解することができる。 ●図形を構成する要素に着目し、図形の構成に仕方について考察して、記述することに課題が見られる。
	変化と関係	○割合を分数で表したり、求めたりすることができる。 ●日常の具体的な場面に合わせて、ともなって変わる2つの数量に対する割合について理解することに課題が見られる。
	データの活用	○分類されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉え考察することや、目的に応じてグラフを選択し、必要な情報を読み取ることができる。
理科	エネルギー	○実験結果を適切に記録することができる。また、その結果を分析、検討して実験の方法を見直すこともできる。 ●日光が直進するといった性質について理解することに課題が見られる。
	粒子	○実験器具(メスシリンダー)の正しい使い方を理解することができる。 ●砂糖水を凍らせたものが水に沈んだという情報を、他者の気付きの差異点や共通点を捉え、解釈し、適切な問題を見出し記述することに課題がある。 ●水が水蒸気になって空気中に含まれていることを日常生活に関連付けて理解することに課題が見られる。
	生命	○身の回りの生物について、探したり育てたりする中の問題を解決するための道筋を構想し、自分で解決する方法を考えることができる。 ●昆虫の体のつくりの特徴を基に、昆虫であるかどうかを説明することに課題が見られる。
	地球	○天気と気温の変化について、観察結果を分析して解釈したり、他者の予想から問題を解決するまでの道筋を構想したりして、自分の考えをもつことができる。 ●提示された資料から数量、変化の大きさなどを分析して、解釈し、自分の考えを持つことに課題が見られる。

3. 教科に関する分析と今後に向けて

国語

本校の平均正答率は全ての問題において全国値を上回っている。どの項目についても全国値を上回っており、良好な結果であった。しかし、「思考力、判断力、表現力等」についての記述式の問題になると課題が見られたため、以下の点に留意しながら指導していく。

- ① 「目的を意識しながら、問題点を踏まえた自分の考えをまとめる」ためには、話し合いを始める際に、目的や方向性を検討すること、話し合いの展開や内容を踏まえて互いの意見を整理することなど、様々な視点から検討して自分の考えをまとめる。
- ② 「書くこと」については、伝え合う経験を積み重ねていくことで、自分の文章や友だちの文章のよいところを見付け、意見を述べ合う経験を通して、自分の表現に生かす。

算数

本校の平均正答率は全ての問題において全国値を上回っている。どの項目についても全国値を上回っており、良好な結果であった。

しかし、「変化と関係」の領域については、正答率が低く、以下の点に留意しながら指導していく。

1. 算数用語の意味を理解、自分の考えを表現する際に用いるようにする。
2. 数量関係に着目して考察する。
3. 日常の具体的な場面に対応させながら理解したり、図や言葉、式を用いて簡潔・明瞭・的確に説明したりする。
4. 算数以外の教科でも、グラフや表を的確に読み取り、根拠をもって論理的に話す。

理科

本校の平均正答率は全国値を上回っている。一方で、記述式の問題の正答率が、全国値を上回るものの、十分とは言えない。そのため、以下の点に留意しながら指導していく。

1. 観察、実験結果の具体的な数値や、それを分析した内容などを根拠にして表現する場面を設定する。
2. 自然の事物・現象に働きかけて得た事実について話し合う中で、自分や他者の気づきを基に差異点や共通点を捉え、問題を見出す場面を設定する。
3. 自然に触れる体験活動の機会を増やし、身近な自然の事物・現象について興味を持たせる。
4. ICT機器を活用し、日常生活で見かける昆虫や植物について、様々な視点から細部まで観察する。

4. 生活習慣や学習環境に関する調査の傾向と今後に向けて

自分自身のこと	自己肯定感 自己有用感 将来の夢	「自分にはよいところがある」「先生はあなたの良いところを認めてくれていると思いますか」については全国値を大きく上回り、「将来の夢や目標を持っていますか」についても、全国値を上回っている。自己肯定感・自己有用感をしっかり持ち、将来に向けて夢や希望を持つ姿が見られる。
家庭生活 学校生活	生活習慣	「起床時間については決まっている」という児童は全国値を上回っているが、「就寝時間については決まっている」という児童が、全国値を少し下回っていた。
	家庭学習	「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」は、全国値を上回っている。また、「平日、学校の授業以外にどれくらいの時間勉強しているか」に対し、6割近くの児童が「1時間以上勉強をする」と回答した。本校では、自主学習を推進しており「家庭学習の習慣や方法を身に付けた子ども」「生活時間の有効な使い方を身に付けた子ども」の育成をめざしている。引き続き、家庭と連携しながら取り組みを進めていく。
	読書	5割近くの児童が「平日に1日あたり30分以上読書をする」と回答しており、全国値を大きく上回っている。また、「読書は好きですか」に対し、8割以上の児童が「好き」と答え、全国値を大きく上回っており、読書に対する関心の高さが見られる。
	ICT機器	「5年生までの授業でのICT機器の使用」について、「ほぼ毎日」、「週3回以上」と回答した児童が、全国値を下回っており、「概ね週1回以上」と使用頻度が低かったが、現在は授業内で頻繁に使用し、有効活用をしている。
地域や社会	地域行事 地域貢献	「今住んでいる地域の行事に参加している」と約5割の児童が答え、全国値をやや上回っているものの、府値を下回っている。また、「地域の大人に、勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んでもらったりすること(習い事は除く)がある」と3割の児童が答え、全校値・府値とほぼ同値となっている。一方で、「地域や社会をよくするためになにをすべきかを考えることがある」と6割の児童が答え、全国値・府値を上回っており、地域への関心の高さがうかがえる。

5. 今後の取り組みについて

Society5.0 到来に向け、吹田市教育ビジョンにおける基本目標の一つとして、「総合的人間力の形成」を掲げています。総合的人間力には、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」とともに、新しい時代に必要とされる資質・能力も含まれています。

これらの力を培うのは、授業であり、そのために教育ビジョンの施策として、

- ①豊かな心の育成と人権教育の推進
- ②確かな学力の育成
- ③生徒指導の充実

に重点を置き、取り組んでいます。

本校におきましても、これらの視点を大切に、教育の推進に取り組んでいきます。

特に学習面においては、「子ども達が『考えたい』『伝えたい』と思える」から「子ども達が『わかった!』といえる」授業づくりをめざし、児童の「主体的に学ぶ態度の育成」に力を注いでいます。今年度も、国語科において「ズレ」から問いを見出し、解決していく授業をめざし、研究を行っています。

また、全学年において自主学習を推進しています。「自主学習ノート」の書き方やまとめ方などのモデルを示すことで、自主的・計画的に学習に取り組む態度の育成に努めています。

さらに、生活面では、自己肯定感・自己有用感をさらに高め、社会的課題に対して自分の考えを持ち、生活の中で生かしていく力の育成に取り組んでいきます。

ご家庭でも、家庭学習の習慣をはじめ規則正しい生活習慣の確立、地域行事への参加など、児童の自立と自学自習力向上のため、ご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

学校・家庭・地域が、手を携えて子どもたちの確かな学力の育成をするために今後とも、ご理解とご協力をお願いいたします。